

平成 21 年 11 月 29 日

「境川を考える市民フォーラム」議事録

1. 日時 平成 21 年 11 月 29 日 13 時 15 分～17 時 00 分
2. 場所 文化会館3階 大会議室
3. 出席者 30 名
4. プログラム (司会:山田 順子さん)
 - (1) 事務局長挨拶(13:15～13:20)
 - (2) 宇田川 敬之助氏(元県議、浦安市社会福祉協議会会長、ふるさと浦安かっぱ村村長)
「昔の境川の思い出」対談(13:20～13:40)
インタビュアー:五十川 勝さん
 - (3) 横浜市の和泉川の自然再生を紹介するビデオ上映(13:40～14:00)
 - (4) 「境川への思い」についてディスカッション(14:00～14:45)
コーディネーター:五十川 勝さん
-----休憩(14:45～15:00)-----
再開「境川への思いの実現にむけて」ディスカッション(15:00～16:15)
 - (5) 懇親会(16:15～17:00)
5. 概要報告
 - (1) 滝井事務局長より当市民活動の立ち上げの経緯、これまでの活動内容の紹介。「境川いきいき大作戦」の内容としては (a)境川乗船体験や灯籠流しなどのイベントと、(b)境川の環境整備への働きかけが主な活動内容であるが、このうち今回は(b)に関して討論したい旨の挨拶。
 - (2) 宇田川敬之助氏の「境川の思い出について」
 - ・自分が子供の頃の境川は江戸川から分流する純粹の川であった。
 - ・当時の境川は生活に密着しており、川で洗濯をしたり、お米を研いでいた。
 - ・水は綺麗で水泳をしたりできる恰好の遊び場であった。
 - ・川にはイナ(=鰻)、サヨリ、スズキが生息していた。
 - ・昭和 23 年にキティ台風が襲来し、村は大打撃を受けた。
 - ・その後境川の入り口と出口に水門が設置された。但しこの水門は観音開きであったた

め開閉に難儀した。その後現在の西水門、東水門に改良された。

- ・ 両水門間の距離は 1.5km である。
- ・ 水辺に親しむ工事が推進されてきて、現在新橋～江川間が工事中である。
- ・ 現在の境川の問題点は水質の悪さにある。その原因が水門であり、東西の水門によって閉じられた水域に元町地区の生活排水が流入していることである。
- ・ これは、公道に面しない建物の下水は、公共下水道につなぐことが出来ない事情による。川が流れれば水は綺麗になる。
- ・ 川を綺麗にしたいと思う者が「かっぱ連邦共和国」を組織した。これは全国に 60 くらいある。私は浦安のかっぱ村を立ち上げ今年で 5 周年を迎えた。今年除幕された「かっぱとべか船」像をご覧戴きたい。
- ・ 二人のかっぱの名前は東小学校、宮下月(るな)ちゃんの「かんちゃん(男のかっぱ)」と「きょうちゃん(おんなのかっぱ)」が採用となった。「環境」の改善を意識した命名が評価された。

(3) 横浜市の和泉川のビデオ上映ではヘドロで悪臭漂ういたち川を市民の力で自然あふれる川へと復元する物語であり会場の全員が感動を受けた。

(4) 「境川への思い」についてのディスカッション

「境川をどのように思っているか」、また「境川をどのようにしたいか」ということに関して、会場から寄せられた意見

- ・ 境川はコンクリート固めであり、水辺に生物が住めない。
- ・ 釣りをしているとみんな笑顔になれる。もっと親しめる川になってほしい。
- ・ 水を流すために水門を開放してほしい。
- ・ 美浜地区の境川べりは汚い。川は人の集まるところでなければいけない。
- ・ 水が汚い。水門が開けられないと聞いてがっかりした。
- ・ 境川の「境」とは何の「境」なのだろうか。
(堀江と猫実の境に位置するため、との回答あり。)
- ・ 西水門近くのたたずまいは魅力的だ。これが気に入って先月堀江に引っ越してきた。
- ・ 川口市は「しば川」は川ざらいをして綺麗にしている。
- ・ 境川沿いの桜はとても気に入っている。今川橋交差点の改良工事で切られたのは遺憾である。
- ・ 横浜の川が出来たのだから、浦安でも出来るはず。そのような市民活動を進めるべきだ。
- ・ 川の再生には技術的な問題だけでなく人々の心情も十分慮る必要がある。
- ・ 境川は千葉県が管理しているので市民のパワーで県を動かすことが求められる。

〔意見、問題点の要約〕

以上の意見を要約すると次の5項目に整理された。

水門、生活排水(ヘドロ原因)、多自然生物、川沿い景観と交通、行政と市民パワー

〔意見・問題点に対する解決策〕

個々の項目について議論された内容を以下に示す。

(1) 水門

元町地区は地盤が低く堤防護岸の高さはAP(境川の干潮時の最低水面)+2.1mとされている。

西水門と東水門の間の水位は AP+0.6m に管理されている。これ以上水位を高くすると、下水が配水管を逆流する。

水位を上げて、下水を逆流させない方法として、下水管を統合して柵を設け、ここからポンプアップして下水管に接続する方法が提案された。

(2) 生活排水(ヘドロの原因)

生活排水の問題については(1)に述べた方法で下水管につながれば解決できる。

ヘドロの問題については川底の清掃にかかわる問題であるが、過去2年間に行なわれた事例によれば、各年とも自転車が30台回収されたこと。また、廃船が多数多数存在することが紹介された。ヘドロの除去のみならず廃棄物の処理も重要問題であり、行政に計画的活動を要望することが大切と認識された。

水の浄化法として「掘江川で実施したEM菌」による方法、「多数のヤクルトの空き瓶による濾過」等の方法が提案された。しかし、境川は流れのない川であり、境川の水は東京湾の海の水と一体のものであることを考えると、境川の水を浄化することは不可能ではないかという意見も出た。

(3) 多自然生物

研究課題として次回送り。

(4) 川沿い景観と交通

ある自治会では、「自治会員で作る花壇」を計画中である。問題は水栓をどのようにするかで、市に相談しなければいけないと思っている、と自治会長より紹介された。

(5) 行政と市民パワー

今後更に勉強を重ね、市民パワーを拡大しようということとなった。また、川の再生には技術的な問題だけでなく人々の心情も十分慮る必要がある。

以上

お願い:この議事録は発言者の言葉をそのまま記載しています。あらかじめご了承ください。